

ユキヒョウ・ファクトシート (ユキヒョウ基礎知識)



個体数

研究者の間では、現在残っている野生のユキヒョウの数は3,500頭から7,000頭と推測されています。正確な数は誰にもわかっていません。ユキヒョウは警戒心が強く、過酷な辺境の地に生息しているので、めったに目にする事ができないからです。世界中の動物園には、およそ600頭のユキヒョウが飼われています。

山の生活への適応:

- 十分に発達した胸
- 短い前脚と雪の上を歩くのに適した大きな足
- 跳躍に適した長い後脚
- バランスをとるための長くしなやかな尾

寒さへの適応:

- 大きな鼻腔
- 長い被毛と綿状の下毛
- 体や顔を包むための太くふさふさした尾



行動

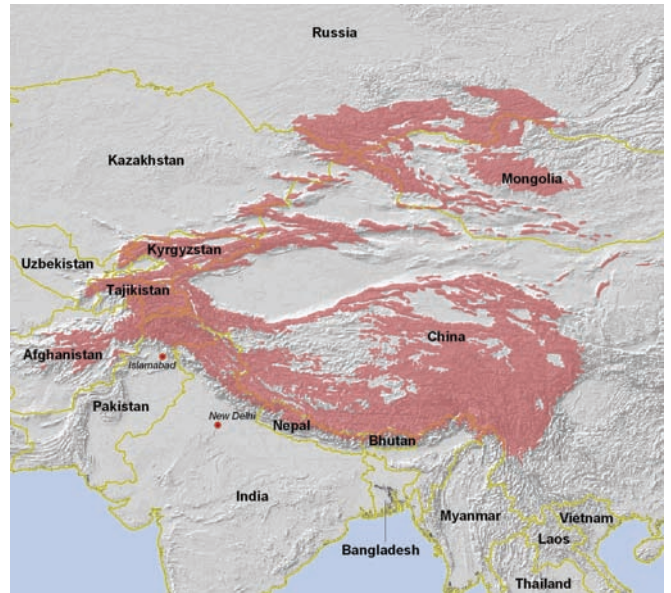
ユキヒョウは普通**単独**で行動します。例外はメスが子供を育てる時です。交尾は冬の終りに行なわれ、90~100日後に1~5匹(通常は2~3匹)の子供が生まれます。ユキヒョウの子供は、通常18~22ヶ月後に自立するまで母親と一緒にいます。

ユキヒョウが活発に行動するのは**夜明けと夕暮れ**です。数日間同じ場所に留まって、突然何マイルも移動することもあります。



**Snow
Leopard
Trust**

4649 Sunnyside Ave. N., #325
Seattle, WA 98103
(206) 632-2421
www.snowleopard.org



生息域

ユキヒョウが生息しているのは、中央アジア山岳地帯で、生息域は、アフガニスタン、ブータン、中国、インド、カザフスタン、キルギス共和国、モンゴル、ネパール、パキスタン、ロシア、タジキスタン、ウズベキスタンにまたがっています。

ユキヒョウ生息域の総計は200万平方キロメートルで、グリーンランドやメキシコと同じくらいの広さですが、この生息域は12カ国にまたがっています。このうちの60%が中国に含まれます。モンゴルの一部など、かつてユキヒョウが生息していたのに、今では姿が見られなくなった場所もあります。

ユキヒョウを脅かす問題

密猟:

毛皮の売買や漢方薬の原料となる骨の採取を目的とした、違法な猟が行なわれています。

餌動物の減少:

ユキヒョウの餌となる動物も、狩猟や草食の家畜との競合で数を減らしています。

ユキヒョウによる家畜の捕食

家畜を襲った仕返しに、牧畜民がユキヒョウを殺すことがあります。

生息地の減少:

ユキヒョウの生息域を利用する牧畜民と家畜が増加し、生息域が分断化されています。このためユキヒョウは孤立化し、数を減らす危険がますます高くなっています。

効果的な保護策の欠如:

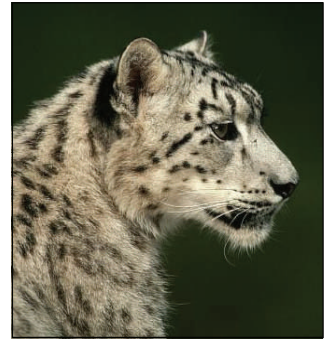
保護区のほとんどは狭くて、ユキヒョウ一頭分の生息域すらカバーできていないこともあります。また多くの国では、保護官の生活のための給料を支払うことができません。

保護意識の欠如:

ユキヒョウ生息域で暮らす牧畜民は、ユキヒョウが生態系の重要な要素で、守らなくてはならない動物だということを理解していないことがあります。

身体的な特徴

ユキヒョウは中型のネコ科動物で、体重は60～120ポンド（27～55キログラム）です。学名は ***Panthera uncia*** で、他の大型ネコ科獣と同じ属に属します。体長は39～51インチ（99～139cm）の間で、尾の長さが体長とほとんど同じ（！）になることもあります。被毛は厚く、うす灰色の地に濃灰色のバラの花模様のような斑紋がついています。山の中では斜面の岩肌に溶け込んで、ほとんど見えなくなります。



食物

ユキヒョウは、他の動物を餌とする捕食動物です。餌の種類は、すんでいる場所によって異なります。ヒマラヤでは主に**ブルーシープ**を捕食します。ブルーシープは**バーラル** (*Pseudios nayaur*)とも呼ばれます。

カラコルム山脈（パキスタン）、天山山脈（中国、キルギス、カザフスタン）、アルタイ山脈（ロシア、モンゴル）では、主に野生のヤギ、**アイベックス** (*Caprasberica*) や大型の野生羊、**アルガリ** (*Ovis ammon*)を捕食します。

またユキヒョウは、生息地全域でマーモットやノウサギなど、小型の動物も捕食します。セツケイなどの大型の鳥も捕食します。ユキヒョウは餌の種類にあまりこだわりがなく、自分の生息域にいる家畜を襲うこともあります。

保護活動

ワシントン条約

（CITES: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）

ユキヒョウはこの条約のリストに登録されており、ユキヒョウの体を一部でも国境を越えて持ち出すことは違法になります。合衆国にユキヒョウの毛皮を輸入しようとした場合、最高で25,000USドルの罰金が科せられます。ネパールでこのような違法取引をした場合、5年から10年の懲役刑（！）となります。

スノー・レオパード・トラストは、ユキヒョウが生息する国々の**政府**と協力しながら、保護対策と保護プログラムの強化を行なっています。

特に重要なのは、当トラストが地元住民や牧畜民と一緒に問題に取り組み、人々とユキヒョウの間の**軋轢を減らそう**としていることです。私たちは、地元の人々が家畜の損害を減らす方法を見つける手助けをしたり、人々の収入を増やす機会を提供したりしています。スノー・レオパード・トラストは、ユキヒョウ生息域で暮らす人々が保護に取り組むのと引き換えに、彼らの製作した手工芸品を販売しています。

とりかえしがつかない絶滅

この素晴らしいネコ科動物、ユキヒョウを救う方法はたくさんあります。最も有効な方法のひとつは、ユキヒョウが置かれた困難な現状を、人々に認識してもらうことです。

その他、スノー・レオパード・トラストの会員になったり、保護活動に寄付をしたり、ボランティアとして協力するなどの方法で、保護に参加することもできます。さらに詳しくお知りになりたい場合は、私どものウェブサイト www.snowleopard.org をご覧ください。

ユキヒョウ生息の証拠

ユキヒョウを見ることは大変難しいので、研究者たちはユキヒョウの存在を示す証拠をもとに、研究を進めています。

引っかき跡:

ユキヒョウが柔らかい土の上を後足で引っかくと、小さくぼみのわきに土が盛り上がった跡を残します。

においによるマーキング:

ユキヒョウは尾の付け根にある臭腺から、つんとくる匂いのスプレーを出し、大小の岩や茂みなどにマーキングします。さらに頬をこすりつけて、においを拡散させます。

糞:

糞もまた、ネコ科動物が「私はここにありますよ」と表現する手段です。

これらのマーキングを利用して、ユキヒョウたちはお互いに出会わないよう気をつけます。また、繁殖期にはオスとメスがお互いを見つけることができます。

